

【目的】家族は、人間にとって基本的な欲求の充足機構である家庭の主体と考えられ、なかでも、愛情や理解、心の安らぎといった精神的欲求の充足、および精神的な支持が、今日特に期待される傾向にある。それでは実際には、家族による支持が、個人の精神的な欲求をどの程度充足しているかについて検討する。

【方法】マズローの欲求階層論、および欲求の満足に関する理論にもとづいて、家族による個人の精神的欲求の充足についての二つの仮説を導きだした。

そして、「自尊感情スケール」「サポートスケール」「過去の家庭環境スケール」の三つのスケールを用いて、精神的欲求充足度の測定を試み、この調査結果の分析をもとに仮説の検証した。調査は、1994年10月、青年期にあたる大学生614名（男性162名、女性452名）を対象に、質問紙による集合調査法で行った。

【結果】①「サポートスケール」での家族によるサポートが高く、ふだんから家族に愛され大切にされ、また支持されていると感じている人ほど、「自尊感情スケール」での自尊感情も高く、自己を高く評価している。②「過去の家庭環境スケール」での満足度が高く、幼児・児童期における家族関係や家庭環境に満足し、肯定的であるほど、「サポートスケール」での家族からのサポートが高く、青年期である現在も、家族から愛され大切にされ、また支持されていると感じている。③親からの心理的な面での分離・独立の過程にあり、最も家族と距離をおく時期であると思われる、青年期を対象としたにもかかわらず、精神的欲求の充足に家族の支持が大きな影響を及ぼしているという結果が得られた。